

*分科会の設置及びテーマの設定について

【 各委員から提出された分科会テーマ 】

- 左岸バイパス機動性について
- 生涯学習センター整備について
- 伝統の山、川、農産、宿舎を考える
- 越境施策について
- 観光客の受け入れ体制について
- 地域コミュニティと地域交流について
- 万板祭りについて
- 環境美化について
- 旧町名を復活に向けて考える
- 旧街舎・ステーションの長期活用について
- 環境美化（河川沿い、河川公園、トイホム前の駐車場等）について
- 旧町名を復活することについて
- ミニクルマ自転車の有効活用について
- 河川公園（いしあみの里、花菖蒲ゾーン）の整備活用について
- 地域産業政策について（行政と団体の相互調整、案内・ルート看板、トイレ問題等）
- 生の環境（安全安心で住みよいまちづくり、借出バイク等の万板固有の助成等）について
- 福神ネットワークづくりについて
- 万板町の住所記載方法の検討
- 地域活性化推進について
- コミュニティ形成について
- 地域産業の活性化について（観光物産による地域の活性、万板地域の産業振興）
- 地域資源の保存、情報発信について（河川公園・うまみち森林公園の整備）
- 市民ネットワークによる地域づくりの推進（生涯学習・人材育成、教育・福神問題）
- 伝統文化、観光資源を活用した町おこしについて
- 伝統教を活用した町おこしについて
- 道の駅（観光物産センター）建設について
- 万板編曲交差点が越境策について
- 万板地域の管線再整頓について（仏徳、聖山郷等）
- 地域委員会のあり方（本庁、他地域委員会との交流）について
- 万板地域の特産の方向性（高齢化対策と夜子館）について
- 今後の万板地域の産業（観光含む）と文化について

【 分科会についての意見・提案 】

- 分科会については3分科会が良いと思う。
- テーマによっては、別のプロジェクトとの統合する可能性があることも考慮すべきと思う。
- 分科会は万板の地域づくり戦略により、大きく3つの柱とし、各分科会の中を協議テーマを設け連携の柱として設けようか。
- 分科会運営は、現在の委員会が未成熟の時点では、運営方法を各委員の力量が決定することになる。地域住民と行政を含む（分科会）が一体となって活動を充てることを目標に効率的・総合性について留意し、どのような役割を担うかを検討を要する。
- テーマは固定すべきでなく、それぞれの分科会（グループ）で検討して決めるべきであり、他グループと重複しても良い。（力量が問われるから）
- 委員会に行政を都導する力量が欠けている。

【 分科会の設置及びテーマ設定について（案） 】

- ①分科会の設置は2つ（1分科会7人）としてはどうか。
- ②分科会のテーマは各委員から提案されたテーマを大きく次の2つの項目に分類して、1分科会が1項目ずつを担当する。
- ③各分科会では、分類された提案内容を協議し、テーマ協議項目をを決定する。
- ④協議項目はテーマに沿った内容で複数の項目を設けてもかまわない。

◎第1分科会【 テーマ：地域産業の活性化と地域資源の保存・情報発信 】

- 地域産業の活性化について（打物産業による地域の活性化、与板地域の農業問題）
- 与板の与板商號の歴史（観光資料）と文化について
- 与板の山、川、農地、住宅を考える
- 観光客の受付人形体制について
- 与板祭りについて
- トヨタ車自動車の有効活用について
- 河川公園（いしずみの里、花巻公園）の整備活用について
- 東線開通事業について（行政と団体の相互調整、案内・ルート看板、トイレ設置等）
- 地域資源の保存、情報発信について（河川公園・うまきも森林公園の整備）
- 心臓文化、観光資源を活用した町おこしについて
- 原線敷を活用した町おこしについて
- 与板地域の資源再発見について（仏像、桑山苑等）
- 道の駅（観光協業センター）建設について

◎第2分科会【 テーマ：地域づくりの推進 】

- 生涯学習センター建設について
- 地域コミュニティと地域交通について
- 旧町名を復旧に向けて考える、与板町の住居調査方法の検討
- 旧商厦スター・マンションの長期活用について
- 防災環境（安全安心な住みよいかづくり、消防ボイラ等の与板固有の勘成等）について
- 環境美化（北川沿い、河川公園、トヨタ車沿の駐車整頓資料）について
- 福祉ネットワークづくりについて
- 地域気候連携について
- コミュニティ静道について
- 市民ネットワークによる地域づくりの推進（生涯学習・人材育成、教育・福祉問題）
- 与板商號の将来の方向性（高齢化問題と少子化）について
- 方岸バイパス構想について
- 船舶対策について
- 与板商號と観光資源振興対策について
- 地域委員会のあり方（赤井、他地域委員会との交流）について